

## ハラビロトンボ

*Lyriothemis pachygastra*

種名



分類	昆虫綱トンボ目トンボ科
俗称	腹部が押しつぶされたように幅広くなっていることから、「腹が広い」トンボの意。
形態的な特徴	体長 32mm(腹長 雄:20～24mm、雌:22～25mm。後翅長 雄:23～27mm、雌:25～29mm)ほどで、腹部が上下から押しつぶされたように扁平で、太短いトンボ。未成熟個体は雌雄ともに黄色地に黒斑を持つが、雄は成熟するにつれて黒化し、腹部背面に蒼白色の粉を吹く。幼虫は体長 15～17mm(頭幅 5mm)ほどで、体色が黄褐色から汚褐色をした体表のザラザラした小さなヤゴ。泥を付着させていることが多い。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。
繁殖行動	成虫は4月から9月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉の裏などに定位して羽化する。朝方に飛び立つが、未成熟個体も羽化水域からあまり離れず付近の開けた草地で生活する。成熟した雄は草地の間の小さな水域の縁などに縄張りを形成し、雌を見つけて連結、交尾をする。交尾後の雌は単独で、ごく浅い水域の挺水植物の際や、浮遊物が水面を漂っているような場所に連続打水産卵をする。
生息場所	おもに平地や丘陵地の挺水植物がよく繁茂した池沼や湿原、腐植栄養型の沼沢地や湿地などの浅い水域に生息する。幼虫は挺水植物の根際や植物性沈積物の下、柔らかい泥の中などに潜む。かつては湿性の草地に多数見られたが、本種が好んで生息する谷地の放棄水田や、湿性植物の生えた浅い池沼などの湿地環境が減少し、生息地や個体数を減らしている。
生息環境への配慮	本種が好む放棄水田や水はけの悪い湿田や、谷地田の上流にある湿地などは、放置されたままであるといずれは乾燥してしまう。しかし、ビオトープとして位置づけること等によって、このような生息空間を維持・管理することが重要である。

引用文献：[http://www.maff.go.jp/nouson/mizu\\_midori/menu/main.html](http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html)